

—— 村瀬孝生（特養よりあいの森・施設長）1日セミナー！ ——

# 生と死をつなぐケア

老いとぼけに関わるヒトの世界は、真面目で滑稽な出来事であふれています。そこから創られる介護に希望はあると思います。27年目を迎え、ふたつの宅老所とひとつの特養を運営する「よりあい」の現状とこれからの、たっぷりご報告します。

**東京**

2019年

日時：2月10日(日) 10:30~16:00

会場：総合ケアセンター駒場苑  
(2階)

(東京都目黒区大橋 2-19-1)

☆京王井の頭線「駒場東大前」駅西口より徒歩5分

(むらせ たかお)

講師：村瀬 孝生



特別養護老人ホーム「よりあいの森」施設長。  
1964年、福岡県飯塚市生まれ。東北福祉大学を業後、特別養護老人ホームに生活指導員として勤務。1996年から、「第2宅老所よりあい」所長を務める。2015年4月より現職。著書に『ほけてもいいよ』（西日本新聞社）『看取りケアの作法』（雲母書房）など多数。

＜プログラム＞ (昼食・休憩あり)

## 生活を共に創る — 主体を大切にするケア

キーワードは「わたしとあなた」、「生身の主体」、「わからない」、「合意」、「自由」。今日の私は、昨日の私と同じではありません。プランと標準化された介護は、お年寄りと介護者を過去に縛り付けてしまいます。介護される側もする側もイキイキしたい。お年寄りと一緒に今日を創りましょう。

## 作業からの脱皮 — ひとりに添うケア、集いを楽しむケア

スタッフの中心的な仕事は、お年寄りのそばに一緒にいること。一緒に美味しいお茶を飲み、一緒に食べる時間を楽しむこと。集いによる「場の力」は個別ケアを豊かにします。介護を作業にしないために大切なことは、現場裁量とスタッフの柔軟なチームプレーです。

## 介護を地域に還す — ひとりを支援するケア

とにかく施設に鍵をかけません。行動を抑制するために薬漬けにすることもしません。そのためには、施設から外に出て歩くお年寄りの見守りを、地域住民のひとりひとりをお願いします。その積み上げが地域ケアを創る可能性を持っています。さらに、地域ケアは労いを生むのです。

## 看取りケアの作法 — 暮らしの中にある死

看取りは、あくまで暮らしの延長線上にあります。スタッフは合宿しながら、その臨終を家族と共有してきました。日頃から五感をフルに活用して「体を触る介護」は、寿ぎのある死に着地します。医療からもっとも遠い場所でこそ、人間的な看取りが可能となるのです。

\*受講料はお送りしません。満員でお断りする場合はみ一週間以内にご連絡申し上げます。

【受講料：7,000円】

\*受講料は当日会場で承ります。

主催

なるほどケア塾

〒189-0011

東京都東村山市恩多町 3-39-13-101 榎円窓社内

お問い合わせ

☎042-306-3771

お申し込みはこちらへ Fax

Fax: 042-306-3772

＜参加人数＞

2/10(日) 東京  
( )名

＜参加者名＞

\*施設の場合は施設名もご記入ください。

＜住所＞〒

(自宅・職場)

＜TEL＞

＜FAX＞